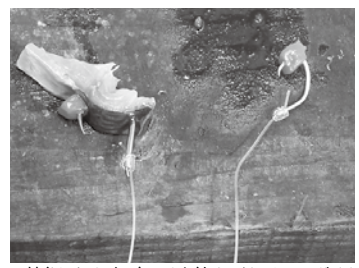


•Tackle Guide
一般的なピンアジ仕掛けはハリス2号2〜3本バリだが、走水沖で釣れる40センチ級の大アジを視野に入れた関義丸の船宿仕掛けはワンランク太めのハリス2.5号2メートル3本バリ。船宿や船で販売しているのでお試しを。



▲持参したサバの身エサを付けてゲストのマダイや青物を狙う常連客も多い

ため、少しずつタナを上げて探ったところ3メートルでアタリが出るようになったとのこと。
潮流が緩い場合、仕掛けは下に垂れ下がり、コマセも下へ沈下していくので、底から2メートルでアタリが出ないときは、さらに50センチ刻みでコマセをまいて上方にタナを取り、アタリが出るタナを探るのも手だ。
2時間ほど食いが一段落すると、船長は移動を告げた。

10分ほど走って到着したポイントは沈船周り。「ここは上からタナを取ってください。上から40メートルでコマセを振って、1メートル巻いて待ちます。40メートルより下に仕掛けを沈めると根掛かりするので気を付けてください」とのアナウンスで再開。
沈船にアジの大きな群れが着いていたのだから、早々にアタリが出た。右ミヨシで25センチ級が上がり、続いて左ミヨシで30センチ級が取り込まれる。
早朝のポイントではアタリ

▼アジは直径30センチのザルからはみ出す良型ぞろい



このころから青空が広がり、魚の活性が上がってきたのか慣れた人は追い食いを狙ってダブル、トリプルで取り込んだ。

ビッグなゲストも

がなかった初心者もようやくアジを釣り上げオデコ脱出。それまでの不調がうそのように、アタリが続いて数をのばしていく。
底からのタナ取りは、しっかり底タチを取らないとタナボケしてアタリが出ないことがある。一方、上からのタナ取りは一見難しそうだが、道糸の色変わりと目印で仕掛けとの距離を確かめてタナに合わせればいい。糸が立つように船の姿勢を修正しながら流してくれるので仕掛けがタナから外れず、初心者にも釣りやすい方法といえる。

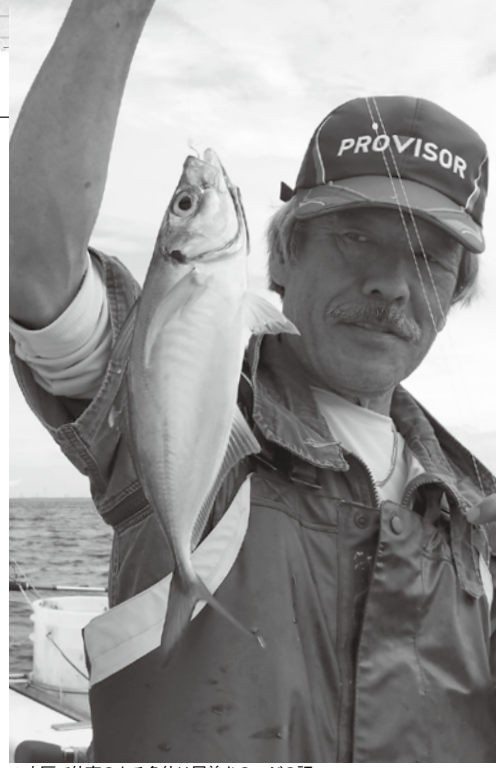
●船宿information
三浦半島走水港
関義丸
☎046-841-7154
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=アジ乗合午前・午後船 6000円 (コマセ、アカタン、水付き)、貸しピン 500円 (紛失時は有償)、アオイソメ 200円
▶備考=予約乗合。午前船7時半、午後船13時出船。ほかタチウオへも出船



関口 道義船長

その後もアジの食いは順調、11時45分に沖揚がりを迎えた。釣果は22〜38センチのアジ

▼ハリ掛かりしたアジにウバ食いた2キロ級のヒラメ。ハリは掛かり所がよければアジ仕掛けでも上がる



▲肉厚で体高のある魚体は居着きのアジの証

休みの日はのんびり釣りをして、新鮮な魚料理を閉んでリフレッシュしたい。
そんな人にイチ推しの釣り物が東京湾のアジ。抜群の安定度と食味のよさで釣り人の期待に応える優等生だ。
9月中旬に釣行した三浦半島走水港の関義丸は、周年のアジ乗合を看板に掲げる老舗船宿。午前・午後船の2便制で出船しており、午前船なら夕食前に魚をさばく時間にも余裕がある。また早起きが苦手な人は午後船に、とことん釣りをしたい人は午前&午後船と通して乗ることも可能。
午前・午後の半日船の料金は6000円とリーズナブル

で、一日通しで乗ると割引きがあり9000円になる。
当日は午前船で乗客は総勢20名と大盛況。定刻7時半に関口道義船長の舵取りで出船となる。天候は曇天で風はほとんどない。
15分ほど走ったところで走水沖のポイントに到着。水深は40メートルほど。タナは底から2〜3メートル。
走水という地名の由来は諸説あるが、その一つが走水の位置が観音崎と富津岬に挟まれた東京湾で最も狭い浦賀水道にあり、その潮流の速さによって速い潮流にもまれた当地の居着きのアジは身が締まった

●三浦半島走水港発↓走水沖
本誌編集部 / 内山高典 Takahori Uchiyama
評判どおりの中々大アジ
港近くの走水沖で盛況

中々大型主体。とりわけ黄金色をまとった魚体は脂の乗りが抜群で、一晩寝かせて身に脂がなじんだ刺身は最高だ。
同船はオモリ130号のビシアジスタイル。潮が速いときが多い当地の釣り方は、底タチをしっかり取るのが大切。
着底時に仕掛けが流されて大きく糸フケが出たときは、1メートルほど巻き上げ、そのまましばらく待つ。上潮だけが速いようなら再び仕掛けがトンと底を打つ。これを2〜3回繰り返して、道糸が真つすぐ立ってからタナを取るようにする。タナの取り方は、底から2〜3回に分けてコマセをまきタナに合わせて待つのが基本だ。
ただし、投入した仕掛けが流されて着底し、何度か底タチを取り直しても仕掛けが船下に寄らないような潮が速いケースでは、仕掛けは横にした

知得!
貸し道具は1隻先着5本まで

「アウトドアブームで、貸し道具を希望する初心者の人が増えたんです。ありがたいことですが、走水沖は潮が速いからオマツリもしますし、初心者が多いとスタッフの手が回りません。そうすると常連さんにも迷惑をおかけするので、貸し道具は1隻先着5本までにさせてもらってます」と船長。初心者の対応と常連客への心づかいゆえの船宿ルール。レンタル希望の人は釣行日を決めたら早めに予約しよう。



▲貸し道具は竿、電動リール、テンピン付きのピン、ロッドホルダーのセットで2500円

タナはやや高め
釣り始めて20分ほどするとようやくアタリが出てきた。右トモで上がったのは30センチ級のアジ。
コマセが効いて群れが船下に着いたのか、船内あちこちで竿が曲がる。取り込まれる

アジは30センチ前後の良型ぞろいだ。
強いアタリがきて40センチ近い大アジを取り込んだ左トモのベテランは、
「この大きなアジが釣りたくて走水に通ってるんですよ」と喜色満面。
この日は小潮のため潮流は緩やか。コンスタントにアジを上げている人にタナを聞くと、最初は底から2メートルで始めたがアタリがなかった